

被災地でのボランティア

「平成 30 年 7 月豪雨」は、広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫や浸水害や土砂災害が発生、甚大な被害となりました。人的被害または建物被害を受けた地域は 33 道府県に上ります。

今号の特集記事では、市民活動支援センター職員(小宮)が現地で災害ボランティアとして活動したある 1 日について時系列でレポートします。様々な地域から集まったボランティアの方の言葉もご紹介します。

★現地へ

8 時 **集合・出発** (JR 山陽本線・山陽新幹線)福山駅集合⇒ボランティアバス 1 台に 17 名が乗車し、出発

9 時 **受付** 三原市災害ボランティアセンター(以下災害 VC)にて受付
⇒オリエンテーション⇒マッチング⇒チーム編成⇒依頼者宅へ出発

10 時 **作業確認・開始**

依頼者宅にて依頼内容を確認⇒リーダーを中心に役割分担⇒作業開始(作業 20 分休憩 10 分の繰り返し)

作業内容:田んぼの用水路と庭にある池の土砂除去、道路の向かいにある物置小屋の前の土砂除去。

- ボランティア A さん(地元・三原市)「自分の家も床下浸水した。自宅の片付けが終わったので、近所の家を手伝っています。地域の力になりたいです」



三原市災害 VC がある
南方コミュニティセンター

★たくさんの思い

12 時 **昼食休憩**

- 依頼者 B さん「朝起きて庭をみて啞然とした。何から手をつけていいのか分からず、早い段階で支援の依頼をしました。緊急度が低いと判断されたので、お手伝いに来てくれたのは今日が初めてです」
- ボランティア C さん(和歌山県から参加)「2011 年紀伊半島大水害の際に多くの災害ボランティアの方に助けられました。今度は自分が力になりたいと思い、今回きました」
- ボランティア D さん(福岡県から参加)「熊本地震の時から災害ボランティアを行っていました。今回も九州の被災地を手伝って一段落したので、三原市に来ました。県内の方がたくさん来ているのに驚きました」

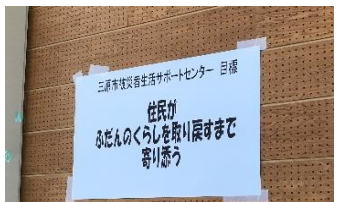
13 時 **再開**

物置小屋の作業が終了。新たに別の用水路の土砂除去を依頼されるも、かなりの時間を要するとの判断により継続案件に。物置小屋チームは田んぼと池の作業に入る。

- ボランティア E さん母娘(福山市から参加)「2014 年の広島市土砂災害の時に参加したのが縁で、福山市社会福祉協議会から連絡がきたので、参加しました」

14 時 **終了**

田んぼと池の作業が終わらず継続案件に。災害 VC に向けて出発。



「普段の暮らしを取り戻す」まで多くの方が関わっていきます

★力仕事だけじゃない

14 時 30 分 **災害 VC に到着**

リーダーが報告書記入。資機材等の返却。

- F さん(全国社会福祉協議会職員)「多くのボランティアの方に来てもらっていますが、平日になると、がくと減ってしまいますね。まだまだ人手が足りていない状況です」
- G さん(災害 VC 運営ボランティア)「私は体力がないので、依頼者宅での力仕事は出来ませんが、災害 VC で受付や資機材の洗浄などで皆さんのサポートをしています」

15 時 **ボランティアバス出発**

16 時 10 分 **福山駅到着・解散**

★今後に向けて

「こんな災害が起きるなんて…」

過去の東日本大震災で宮城県石巻市に、新潟県中越地震で新潟県長岡市に災害ボランティアとして私が活動した際に、多くの被災者の方から聴いた言葉です。しかしその後、力強く復興しています。そこには多くの方の支援と地域の方々のつながりがありました。

今回の豪雨災害では、12府県内60市町の社会福祉協議会が災害VCを設置し、9月5日(水)までに21万3千人を超えるボランティアの方々が活動されました(全国社会福祉協議会調べ)。

特集記事作成中の9月4日(火)に台風21号の大雨、強風により32都道府県で人的被害または建物被害が発生しました。さらに9月6日(木)未明に北海道胆振地方中東部を震源とする地震が発生しました。このように日本国内で大きな災害が頻発している状況です。

今号の特集記事では、被災地での活動を中心に取り上げましたが、お金の寄付という支援のかたちもあります。また、災害に備えることも重要です。ぜひ下記を参考にしてください。

被災された方が一日でも早く普段の暮らしを取り戻せるように。調布市市民活動支援センターは支援を続けていきます。(市民活動支援センター 小宮)

災害に備える

食料や飲料、生活必需品、医療品、救急道具などの備蓄

災害から3日を過ぎると生存率が著しく下がってしまうため、3日間は人命救助が最優先になります。避難所への物資輸送はその後になりますので、最低でも3日間を自力で乗り越えられるよう準備をしましょう。
また、大規模災害発生時には1週間分の備蓄が望ましいとされています。

地域の防災訓練への参加

災害発生時に大事になってくるのは、「自助(自分の身は自分で守る)」と「共助(近隣で互いに助け合う)」です。防災訓練に参加して避難場所や避難経路の確認とともに、近隣住民の方を知る機会にしましょう。

お金の寄付の種類

支援金

- 支援したい活動をしている団体におくる
- 被災地で支援活動をしている団体を支えることで被災者の役に立つ

市民活動支援センターに募金箱を設置しています。

義援金

- 被災者にお見舞いや応援の気持ちでおくる
- 自治体を通して被災者の手に届く

市民活動支援センター及び総合福祉センター1階・2階に募金箱を設置しています。

届く相手と使われ方が違います

義援金と支援金、どちらも大切なお金です。被災された方の家の修理や、支援団体の継続的な活動のために使われます。

平成30年度災害ボランティア入門講座 全3回 開催!!(参加費無料)

調布市で災害が起こった時、自分にできることは?地震・水害・避難所生活 その時あなたは どうしますか?

≪講座内容≫

回数	日時	会場	内容	講師
第1回	9月28日(金) 18:30~20:00	市民プラザあくろす 2階会議室-①	「みんなで進める防災対策」 ~調布市で地震、水害が起きたら~	調布市総合防災安全課職員
第2回	10月11日(木) 18:30~20:30	市民プラザあくろす 2階会議室-①	「西日本7月豪雨災害の現状」 ~その時、避難所は?~	東京ボランティア・市民活動センター職員
第3回	10月21日(日) 9:00~12:00	多摩川河川敷 総合防災訓練会場	「調布市総合防災訓練」 見学・体験	市民活動支援センター職員

≪対象者≫ 防災や災害ボランティアに興味のある調布市民(在学・在勤も可) 先着20名(全3回出席者優先)

≪申込方法≫ お名前、携帯電話番号、メールアドレス、所属団体をメールで市民活動支援センターへ!

メールアドレス: npo-center@ccsw.or.jp まで送信してください。9月21日(金)より受付開始 定員になり次第、締め切りとなります。

≪お問合せ先≫ 市民活動支援センター 電話:042-443-1220 FAX:042-443-1221 担当:高木・小宮

主催:調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター 協力:東京ボランティア・市民活動センター、調布市総合防災安全課